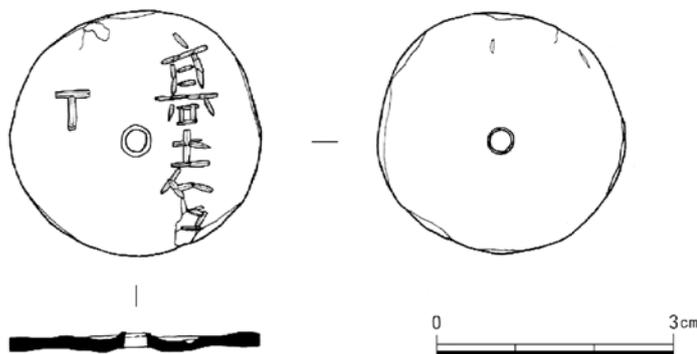


## 北白川の無文銀銭

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



小倉町別当町遺跡出土の無文銀銭

1994年12月、京都市立北白川小学校（左京区北白川別当町）での発掘調査において「高志」と刻まれた「無文銀銭」が出土した。このように明瞭な文字を刻んだ無文銀銭はこれまでに例がなく、日本の貨幣誕生の謎を解明するうえでも貴重な資料として注目された。

調査地点を含む周辺は、小倉町別当町遺跡とよばれ、縄文時代の遺跡として有名だが、飛鳥時代から奈良時代にいたる集落遺跡とし

ても知られている。これまで北白川小学校内で行なわれた調査によって、多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが発見されており、南北100m以上の規模をもつ集落であったことや、北側にある北白川廃寺と関連した集落であったことなどがわかってきた。

今回の無文銀銭は、この集落跡で検出した飛鳥時代後半（7世紀後半）の土壌から出土した。全国では14例目だが、京都府内では初

めての出土である。大きさは直径約31mm、厚さ約2mm、重さ9.5gであり、銀の含有率は94.9%と純度が高い。

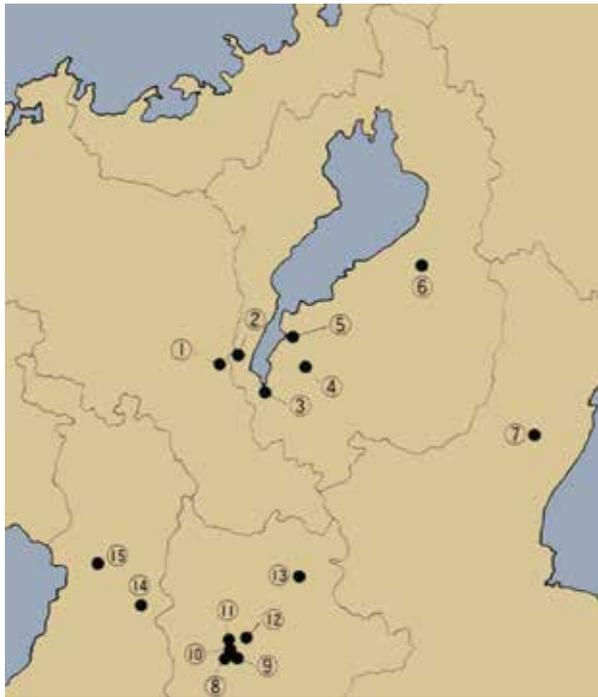
無文銀銭の最初の発見は江戸時代中期のことで、『和漢泉彙』という古銭書によれば、宝暦11年（1761）、大阪市天王寺区の真宝院町（<sup>⑮</sup>）の畑から約100枚を掘り出したということである。

無文銀銭の出土分布は畿内およびその周辺に限られており、図示したように、飛鳥時代後半の近江の大津京や飛鳥の藤原京を中心とする傾向を示している。

現在知られている無文銀銭の数は、出土品、収集品、拓本を含む文献資料などすべて合わせると約130枚を数え、このうちの25枚が現存している。

無文銀銭の特徴は、以後の銭貨にみられる銭文をもつ正円形の鑄造品とは異なり、中央に小さな穴をあけただけの銀製の円盤で、銭文をもたないということである。また、三角形・円形・扇形などの銀片を貼り付けたものや「田」・「〇」・「×」形の記号を刻んだものもあり、どれひとつとして同じ大きさや形のものがないことも特徴のひとつである。平均の大きさは直径29.3mm、重さ9.6gである。

無文銀銭は「和銅開珎」より古い日本最古の貨幣といわれている



無文銀銭出土分布図

出土地点	所在地	数
①小倉町別当町遺跡	京都府 京都市左京区北白川別当町	1
②崇福寺跡	滋賀県 大津市滋賀里町	12
③唐橋遺跡	大津市瀬田	1
④狐塚遺跡	栗太郡栗東町安養寺	1
⑤赤野井湾遺跡	守山市赤野井町	1
⑥尼子西遺跡	犬上郡甲良町尼子出屋敷	1
⑦北野古墳	三重県 鈴鹿市加佐登町	1
⑧川原寺跡	奈良県 高市郡明日香村川原	1
⑨飛鳥板蓋宮伝承地	高市郡明日香村岡	1
⑩石神遺跡	高市郡明日香村飛鳥	1
⑪藤原京左京六条三坊	橿原市木之本町	1
⑫谷遺跡	桜井市谷	1
⑬都祁村	山辺郡都祁村	1
⑭船橋遺跡	大阪府 柏原市船橋	1
⑮真宝院町	大阪府天王寺区	約 100

無文銀銭出土地名一覧

が、当時の文献に記載された例はなく、いつ頃、何のために造られたのか、その多くは謎にまつまれている。実際に流通貨幣だったかどうかについても、あまり明らかでなく、天智天皇の勅願になる大津京の崇福寺跡(②)で舍利容器と共に出土した例などから、祭祀具の性格が強いのではないかとの見方もあるが、定説はない。

さて、北白川の無文銀銭には、「高志」の文字と「T」形の記号が鑿で

刻んであるが、この二文字について、吉祥句(縁起の良いめでたいきざしを表わす言葉)、地名、人名から検討してみよう。

吉祥句では、中国の文献にある「高志」がその候補である。「志を高くする」の意味で使われる。

地名では、越前、越中、越後などに相当する日本海沿岸地域の古称が「越」、「高志」である。他に、現在も地名にのこる奈良県高市郡明日香村の越(高志)がある。

人名では、氏族名の「高志」があげられる。高志連村君、高志連恵我麻呂、僧行基の父高志才智らがこの時代に活躍した人物である。なかでも村君は従五位下にまで昇進し、越前守に赴任したとされる。彼らは大和国や河内国に本拠地をおいたが、このうち高志連氏の氏名は明日香村越(高志)の地名にもとづくものと考えられており、人名説中の最有力候補である。

1995年2月、滋賀県尼子西遺跡(⑥)で氏族名とみられる「大伴」の二文字を刻んだ無文銀銭が出土した。「高志」人名説を有望視できる確実な類例がひとつあらわれたことになる。

だが、「高志」の解釈について、今のところこれ以上の推理をすることは難しい。あとは想像力を補って、1300年前の飛鳥時代、この二文字を刻んだ人の心に想いを馳せてみようか。



小倉町別当町遺跡の集落跡 (北から) 無文銀銭は南壁側の土壌から出土した。

(長戸満男)